

心の原風景 —我が母校—

佐渡市立高千中学校

高千・外海府地区は、全国に知られる「夕鶴」や「安寿伝説」の昔話を伝承してきた地域です。今年、「大佐渡石名天然杉」の遊歩道や現在認証を目指している世界ジオパークのエリアとしても注目を得ています。そんな豊かな地域環境を最大限活用し、当校の総合的な学習の時間では、「文弥人形」の伝統芸能の継承や「自然環境」の学習を行っています。

当校は、グラウンドを中心に高千小学校と並んで建っています。その利点を生かし、小中連携して運動会や文化祭を実施しています。また、地域・保護者・学校で組織する青少年健全育成協議会が精力的に事業を展開して、授業公開、乗船・魚さばき体験、スポーツ交流



「文弥人形」披露

流、意見発表会などの取組を行い、地域全体で、地域の宝を育んでいます。

現在、高千中学校の

全校生徒数は33名です。しかし、「少人数の良さを生かす」を合言葉に、職員一丸となって文武両道の教育実践に励んでいます。学習面では、定期的な補充学習のほか、「学習アドバイスカード」(学期1回、各教科ごとに生徒の取組の良さや課題を知らせる)の配布やそれに基づく『個別学習面談』を今年度から実施しています。運動面では、地域の少年野球「高千ドラゴンズ」や、「高千バドミントンスクール」で育てていただいた体力や技能を生かし、陸上、駅伝、バドミントンで好成績を上げています。

トンネルを抜けるとそこは、民話の里であり、豊かな自然の中でたくましく生きる人々の集う里です。

◆教育委員会学校教育課(両津支所内) ☎23-4898



知事と遊歩道の渡り初め

ジオパーク、推進日記

⑥

一寸の化石にも…

西三川・砂金山ジオサイトでは1センチにも満たない小さな化石が産出します。8月号で、地層に含まれる化石は当時の環境を知る重要な手がかりになるということを紹介しました。葉や昆虫のような大きな化石はもちろん手掛かりになるのですが、実は1ミリにも満たないとても小さな化石も、重要な手掛かりとして使われることがあります。

図1は西三川・砂金山ジオサイトで産出する、「有孔虫」というプランクトンの殻の化石です。現生の有孔虫の殻は沖縄では「星の砂」としてお土産屋さんで売られています。このような小さな化石を微化石と言います。西三川・砂金山ジオサイトのものには微化石の中でも特に大きく、顕微鏡を使わなくても、肉眼で観察をすることが出来ます。特にオパキュリナという名前の有孔虫の化石はアンモナイトのような形をしており、肉眼でも渦巻きを観察することが出来ます。この化石が見つかるのと、当時の環境は沖縄のように暖かく、浅い海であったということがわかります。

地層中から当時の環境を示す化石が一つだけ産出しても、あまり説得力はありませんが、微化石なら一握りの砂の中に大量に含まれています。このように、少しの試料から多くの証拠を得ることができるということが、微化石の特徴です。

1センチにも満たないとてもちっぽけな化石ですが、このような化石が地球の歴史に大きく関わっているのです。

◆教育委員会社会教育課
ジオパーク推進室(両津郷土博物館内)
☎23-2100

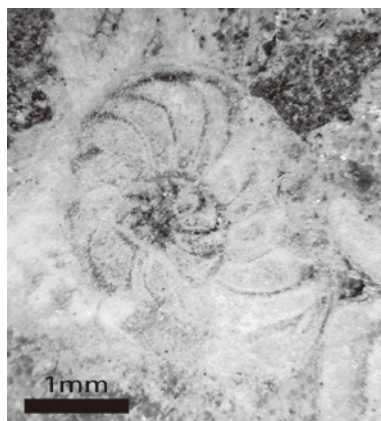


図1 渦巻が見えるオパキュリナ